

新潟県生活文化研究会だより

2009.08.01 NO.18

新潟県生活文化研究会

新潟市東区海老ヶ瀬471 TEL.025-270-7383

FAX.025-270-5173

最近思うこと

佐々木 博昭

平成19年度の会誌には、「新任のごあいさつ」として、「課題としては、いかに会員数を増やすか、年次大会の充実や新潟市以外での開催の検討、魅力ある会誌の発行や専門性の強化と生活に根ざした情報の提供についてなどがあると思いますが、運営委員会のメンバーと議論を深めながら、若い方々の意見を積極的に取り入れる必要があると考えています。」と書きました。しかし私自身新潟県立大学の設立に関わり、結果として今日まで何もせずにきてしまったことをお詫びしなければなりません。それでも平成20年度の年次大会は、副会長の地濃先生のご尽力で、柏崎の新潟工科大学で開催することができました。また、今年度は若い新入会員の方々の援助をいただき、ホームページの立ち上げができそうです。「生活に根ざした情報の提供」については、情報が瞬時に全世界に拡がり、もしかしたら新潟在住の方々だけでなく、新潟出身者あるいは新潟に興味がある人を巻き込んだ研究会になる可能性も秘めています。

ところで、これまで衣・食・住をはじめ民俗学など幅広いメンバーで構成されてきた研究会も、最近言語学、文化人類学の分野の方々の入会もあり、一層の広がりを感じておりました。研究会のあり方を考える上で、やはり原点に戻らなければと想っていたところ、池内了氏の「科学の落とし穴」（晶文社）に出会いました。「市民

と科学、市民の科学」のところで、「今、日本では、科学技術創造立国などという厳めしい旗を立てて、経済を活性化するための科学が喧伝されているが、実は市民が求めている科学はそうではない。金儲けのための科学ではなく、スコッチを片手に楽しむ科学、未知の物語を繙く科学、を望んでいるのである。（中略）それは地域通貨に似ているかもしれない。これまで言い伝えられてきたことを科学の目で見直し、それが人々の暮らしにどのように生きてきたかを検証し、地域のつながり回復する糧とする、そんな人々の『結び』の役割を身近に生きる科学に託しているのだから。茶飲み話のように市民が自由に科学を語り合える場を作りたいと思っています。」と述べています。具体的な事例として、故高木仁三郎氏主宰の「原子力資料情報室」、上田昌文氏主宰の「市民科学研究室」が挙げられています。

池内さんは、宇宙物理学専攻の自然科学者ですが、学問体系上の一般的な科学と読み替えることができます。「魅力ある会誌の発行」や「生活に根ざした情報の提供」を考えると同時に、新しい視点から新潟県生活文化研究会の役割をもう一度考え直す必要があると想うこの頃です。

平成20年度総会報告

昨年度の総会は、2008年10月24日（金）13:00～13:20、新潟工科大学の大学院会議室において開催されました。

会員総数83名のところ、出席者10名、委任状38名で、総会は成立しました。

〈議事〉

1. 第1号議案 平成19年度事業報告の件

事務局より次の報告があり承認されました。

①平成19年度総会および年次大会が、平成19年10月27日に滞りなく行われたこと、②会誌「新潟の生活文化」No.14、会報「新潟県生活文化研究会だより」No.16が発行されたこと。

2. 第2号議案 平成19年度収支決算の件

曾根英行会計責任者より、資料の一部訂正が提案されました。支出の部の印刷費備考に「新潟の食文化」とある部分を「新潟の生活文化」と訂正。訂正された資料をもとに、事業内容に沿って支出・決算がなされたことが報告されました。また、7月18日、岡田玲子・伊藤知子監事による監査を受け、予算執行が適正になされていることを確認してもらった旨の報告があり、その後平成19年度収支決算が承認されました。

3. 第3号議案 平成20年度事業計画案の件

事務局より、平成20年度総会・年次大会は、新潟工科大学の地濃茂雄会員の尽力によって本日開催の運びとなったこと、また「新潟県生活文化研究会だより」No.17を発行して8月上旬

に全会員に送付したこと、会誌No.15は現在、原稿募集中（締切は11月30日）であることが報告され、承認されました。

4. 第4号議案 平成20年度収支予算案の件

曾根会計責任者より、資料の一部訂正が提案されました。当日資料の、印刷費増減額0円を-24,737円に訂正。訂正された資料をもとに説明がなされ、平成20年度収支予算案が承認されました。

5. 第5号議案 幹事の追加について

事務局から、今回の新潟工科大学での総会・年次大会の開催を機に、新潟工科大学の教員である次の2名の会員にも幹事に加わって欲しいという提案がなされ、承認されました。

飯野 秋成氏

油浅 耕三氏

6. その他（報告事項）

○会誌バックナンバーの処理について

現在、会誌のバックナンバーが増加し、保管場所に困っているため、事務局の仮設校舎移転を機会に、各号（創刊号～第14号）を100部程度残してその他は廃棄することにした旨、報告がありました。

（議事録署名人 曾根英行）

平成 19 年度実施事業

1. 平成 19 年度総会および年次大会の開催
2. 会誌「新潟県の生活文化」No.14 号の発行
3. 会報「新潟県生活文化研究会だより」No.16 号の発行

平成 19 年度収支決算書 (2007 年 4 月 1 日～2008 年 3 月 31 日)

{収入の部}

(円)

科目	予算額	決算額	増減額	備考
会費	280,000	256,500	-23,500	19年度年会費(3,500円×72名)、過年度分納入含む
利子	0	0	0	郵便貯金利子
雑収入	0	39,000	39,000	投稿料2件(27,000円+12,000円)
繰越金	72,048	72,048	0	
収入合計	352,048	367,548	15,500	

{支出の部}

(円)

科目	予算額	決算額	増減額	備考
大会費	10,000	10,000	0	大会・総会
印刷費	280,000	283,500	3,500	「新潟の食文化」N014 印刷代
通信費	40,000	45,746	5,746	切手・ハガキ、研究会だより、研究会誌郵送
雑費	2,000	1,039	-961	文房具、封筒代、ラベル紙
予備費(次年度繰越金)	20,048	27,263	7,215	
支出合計	352,048	367,548	15,500	

監査の結果、適正に処理されていることを確認致しました。

会計監査

岡田 玲子 (岡)

伊藤 知子 (伊)

平成 20 年 7 月 8 日

平成 20 年度実施事業

1. 平成 20 年度総会および年次大会の開催
2. 会誌「新潟県の生活文化」No.15 号の発行
3. 会報「新潟県生活文化研究会だより」No.17 号の発行

平成 20 年度予算案 (2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日)

{収入の部}

(円)

科目	前年度 予算額	予算額	増減額	備考
会費	280,000	280,000	0	年会費(3,500円×80名)
利子	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
繰越金	72,048	27,263	-44,785	
収入合計	352,048	307,263	-44,785	

{支出の部}

(円)

科目	前年度 予算額	予算額	増減額	備考
大会費	10,000	10,000	0	大会・総会
印刷費	280,000	255,263	0	会誌「新潟の生活文化」N015 印刷代、研究会便りなど
通信費	40,000	40,000	0	切手・ハガキ、研究会だより、研究会誌郵送代など
雑費	2,000	2,000	0	文房具、封筒代、ラベル紙など
予備費(次年度繰越金)	20,048	0	-20,048	
支出合計	352,048	307,263	-44,785	

会からのお知らせ

[1] 2009年度（平成21年）の総会および年次大会開催のお知らせ

本年度の総会および年次大会は、次のように4月に開学しました公立大学法人・新潟県立大学において開催します。学友祭とも重なりますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

総会・特別講演・年次大会

日時 10月31日（土） 午後1時より

場所 新潟県立大学（教室は未定）

〒950-8680 新潟市東区海老ヶ瀬471

1. 総会

議事次第

- (1) 議長選出
- (2) 議事録署名人選出
- (3) 議事

- 第1号議案 平成20年度事業報告の件
第2号議案 平成20年度収支決算の件
第3号議案 平成21年度事業計画案の件
第4号議案 平成21年度収支予算案の件
第5号議案 その他

2. 記念講演

演題：「世界の中の海老ヶ瀬 ～地点集合あるいは意識集合としての地域理解の試み～」

講師：山中知彦氏

（新潟県立大学国際地域学部教授）

3. 年次大会研究発表の募集！

ポスター形式の研究発表を募集いたします。発表形式は以下のようにお願いします。

◇縦841mm×横594mm（A1サイズ）以内

◇研究内容は自由に記入してください

なお、10月31日に、ポスターの前で30分間、各自説明を行っていただきます。質問を受けたり、自由に討論を行なってください。

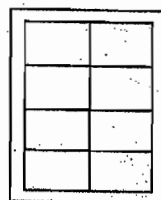
掲示：2009年10月31日（金）

10:00～16:00まで

発表：2009年10月31日 15:00～15:30

場所：新潟県立大学内（詳細は未定）

例えば



A4用紙の場合は左図の様に8枚並べて展示することができます。

原稿を貼る板は事務局で用意します。

◆研究発表の申込みについて

応募締切：2009年10月2日（金）

題目および発表者全員の氏名と所属だけでも結構です。事務局までお知らせ下さい。

レジメ・ポスターの送付締切：

2009年10月23日（金）

大会日当日に各自でご用意下さっても構いません。

送付先：〒950-8680 新潟市東区海老ヶ瀬471

新潟県立大学

新潟県生活文化研究会事務局

板垣 俊一 宛

TEL.025-270-7383

〔2〕会誌「新潟の生活文化」16号の原稿募集！

会誌16号の原稿を募集致します。

皆さんの積極的な投稿をお願い致します。論文・論説・資料・紹介・エッセー・お知らせなど、会の趣旨に近ければどんな小さな記事でも結構です。気楽に投稿してください。

★原稿の締切日：平成21年11月末日

◇書式について

書式は横書きとします。予算が限られていますので、場合によってはそのまま印刷が可能なように、文字の大きさ・周囲の余白・字数など1ページの体裁を整えていただくことになるかも知れません。また、図表や写真(白黒)の挿入については投稿者に後日ご相談致します。なお、刷り上がり4ページ以内は投稿料無料、4ページを超過した場合は予算の関係上、5ページ以上の分につき印刷実費を負担して頂きます。また、ページ数に関わらず、図表や写真のカラー印刷を希望される方についても印刷実費を負担して頂きます。

◇著作権の譲渡について

今後、本会のホームページも開設される予定ですので、会員のみなさんの記事を電子化してホームページ上にのせることもありうると思います。これについては著作権法の問題が生じますので、投稿のさいには次のような方針をご理解下さるようお願い致します。

- (1) 会誌掲載記事の著作権は執筆者本人に属します。
- (2) ただし、上記の著作権のうち「公衆送信・伝達権」を学会長に譲渡していただきます。

〈次の記事もお願いします。〉

*「ひろば」欄の〈特集〉では「我が家の伝統の料理、地域の料理・食物」を掲載しています。

たとえどのように短い紹介でもかまいません。

写真がある場合は添えて下さい。また、〈掲示板〉に載せる記事もご紹介下さい。今後予定されている研究会活動や市町村の地域活動などです。

*「紹介」欄に載せる〈会員の出版物〉や〈催し物〉もご紹介下さい。

○会誌の構成は今までと同じく次のように予定しております。

I 研究論文・研究ノート

II 論説・総説・解説

III 資料

IV ひろば

①声(エッセーを自由に)

②特集

③掲示板(会員の皆さんにお知らせしたいことをお寄せ下さい)

V 紹介

①出版(会員の出版物をご紹介下さい)

②催し物(地域であった、または予定の催し物をご紹介下さい)

◇記事の振り分けは、編集担当へご一任いただければ幸いです。

◇文字原稿は取り敢えずEメールにてテキストファイルで送って下さっても構いません。

原稿送付先

〒950-8680 新潟市東区海老ヶ瀬471

新潟県立大学

会誌編集担当：立山千草 宛

E-mail: chigusa@unii.ac.jp

会員名簿

	氏名	勤務先	興味を持っている分野
1	阿部 礼子		老人福祉
2	飯野 秋成	新潟工科大学	建築環境工学
3	五十嵐 稔		民具
4	五十嵐 由利子	新潟大学教育人間科学部	
5	石原 和夫		食の分野
6	池田 亨	県立小出高等学校	民具研究
7	伊積 テル		被服
8	伊藤 知子	新潟第一高等学校	総合的な生活文化と地域・風土との関わりについて
9	岩野 笙子		
10	岩淵 令子		衣文化
11	大江 秀夫	北里大学保健衛生専門学院	地域に伝わる料理等
12	岡田 玲子		栄養教育
13	荻野 優枝	県立教育センター	食文化
14	荻原 信子	中東蒲原農業改良普及センター	
15	小野塚 美代子		食生活（行事食・郷土食） 保育（出産・しつけ）
16	角谷 ヒロ子	新潟県消費生活センター	食生活
17	亀山 千賀子	東京学館新潟高等学校	
18	熊谷 秀子		食
19	解良 佐裕子		短歌、焼き物、わら細工
20	児玉 明子	長岡市立上組小学校	食べ物、食文化と学校給食
21	権平 康子	新潟JA共済連 健康教室	食文化・伝承の生活文化全般
22	佐藤 純子		衣生活、食生活
23	渋谷 歌子		
24	島津 光夫		
25	陣内 美江	川口町役場	
26	鈴木 秋彦	新発田市教育委員会 生涯学習課	日本民俗学
27	鈴木 貴江子	板倉町立板倉中学校	
28	高瀬 和喜	高瀬歯科	食生活、食文化
29	高橋 晴美	中魚沼農業改良普及センター	
30	高橋 由美子	十日町市役所	雪の民俗、衣食生活、動植物と人間の関わり、ジェンダー
31	田口 太郎	新潟工科大学	建築、町づくり
32	竹田 和夫	県立新潟南高等学校	前近代対外関係史、日本文化史、地域文化史など
33	竹林 正克	(株) 竹林味噌醸造所	食品
34	田中 ひさよ	北里大学保健衛生専門学院	
35	丹後 俊春	(株) 丹後工務店	
36	地濃 茂雄	新潟工科大学工学部 建築学科	衣、食、住
37	津山 正幹	(株) 二宮書店編集部	民家
38	富永 禎秀	新潟工科大学工学部 建築学科	建築
39	長井 久美子		
40	中川 加寿子		
41	中島 和子	新潟市立高志高校	住生活、食生活
42	中村 厚子		山野草の利用・活用
43	仲村 友夫	(株) シグマ設計	意匠・構造を活かした特殊な建物の設計
44	庭野 克子		
45	野澤 繁	デザインワークス空間舎	空間デザイン、住文化
46	長谷川 美香	(有) ミカエバーサリデザインオフィス	
47	平沢 和子		衣・食と生活
48	藤井 隆至	新潟大学経済学部	
49	本間 伸夫		
50	牧野 令子	新潟県立瀬波病院	
51	丸山 久子		
52	宮田 青美	公立学校栄養職員	なんでも・・・
53	村上 妙子		
54	村田 紀夫	村田歯科医院	歴史、考古学、スポーツ
55	山浦 健夫	(有) スタッフ・ラン	日本近代美術史
56	山上 卓夫	新潟青陵高等学校	
57	山口 啓子	新潟市立新潟小学校	
58	山口 マサイ		
59	山崎 光子		
60	山田 雅子		
61	油浅 耕三	新潟工科大学 建築学科	地域の集住環境と自然環境、地域づくり
62	横尾 欣一	大島村教育委員会	生活文化を生涯学習に生かすこと
63	板垣 俊一	新潟県立大学国際地域学部	民俗芸能
64	太田 優子	新潟県立大学人間生活学部	食文化史、特に食教育史
65	坂口 淳	新潟県立大学国際地域学部	
66	佐々木 博昭	新潟県立大学国際地域学部	生活材料
67	佐藤 恵美子	新潟県立大学人間生活学部	調理学
68	島崎 敬子	新潟県立大学人間生活学部	
69	菅井 清美	新潟県立大学国際地域学部	繊維、住居、環境
70	関谷 浩史	新潟県立大学国際地域学部	
71	立山 千草	新潟県立大学人間生活学部	食の分野
72	福嶋 秩子	新潟県立大学国際地域学部	
73	宮西 邦夫	新潟県立大学人間生活学部	予防医学
74	渡邊 令子	新潟県立大学人間生活学部	
75	曾根 英行	新潟県立大学人間生活学部	
76	野本洋平	新潟県立大学国際地域学部	
77	神山 伸	新潟県立大学人間生活学部	